

FUND
REPORT

銘柄選択こそリターンの源泉、 “アクティブ運用”ならではの視点 ～中小型銘柄の組入事例～

三井住友DS日本バリュー株ファンド

愛称：黒潮

R&I ファンド大賞 2025

<投資信託20年/国内株式バリュー部門>

優秀ファンド賞 受賞! ※詳細は6ページをご覧ください。

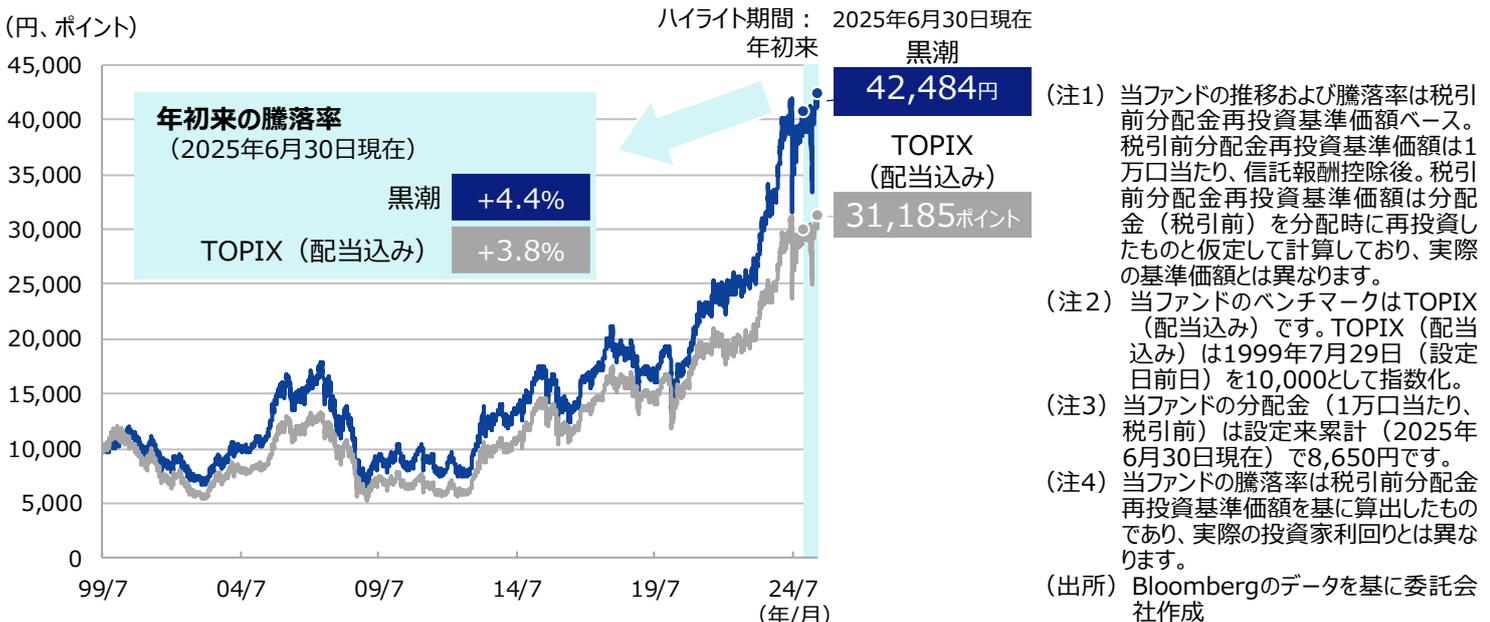
平素より「三井住友DS日本バリュー株ファンド」(以下、「黒潮」もしくは「当ファンド」)をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

本資料では、黒潮のパフォーマンスの源泉となる“アクティブ運用”ならではの銘柄選択の視点に関して、生活に身近な中小型株銘柄を中心に組入銘柄の事例をご紹介します。

日本株市場を上回るパフォーマンス

- 黒潮は、割安かつ業績の変化等が期待される銘柄を選別し、組み入れています。米国の関税政策の動向などを受けて市場が大きく変動する中でも、黒潮は相対的に良好なパフォーマンスを維持しています。黒潮の年初来の騰落率(2025年6月30日時点)は+4.4%と、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の同+3.8%を上回りました。
- 設定来のパフォーマンスも概ね堅調です。黒潮の設定来騰落率は+325%であり、TOPIX(配当込み)の+212%を上回りました(2025年6月30日現在)。

パフォーマンスの推移 (1999年7月29日(設定日前日)～2025年6月30日、日次)



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。分配金は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは8ページをご覧ください。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

“アクティブ運用”ならでの視点（1）

知っているようで知らない！？ ～「ワールド」の今とこれからへの期待～

アパレルブランドだけではない！事業の見直しによる収益構造の変化に着目

「ワールド」のご紹介

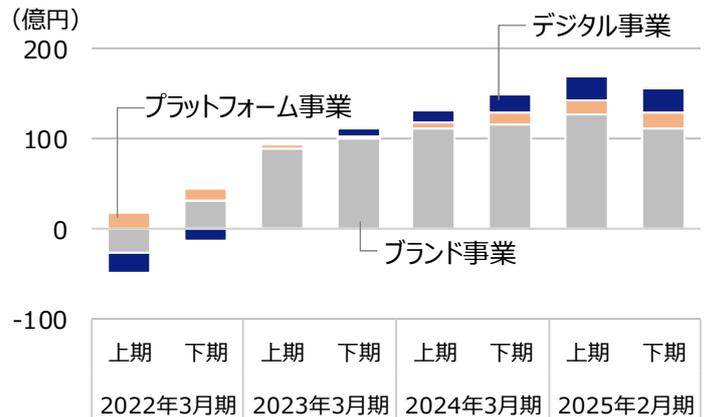
- ワールドは、「UNTITLED（アンタイトル）」「TAKEO KIKUCHI（タケオキクチ）」といった複数のブランドで広く知られるアパレル企業です。
- 2005年にマネジメント・バイアウト（MBO、経営陣による買収）を実施し株式を非公開としました。
- MBOの後、大量出店やブランドの乱立などで業績が低迷したものの、一連のリストラを通じて業績が回復し、2018年9月に再上場を果たしました。



※画像はイメージです。

ワールド 事業別コア営業利益の推移

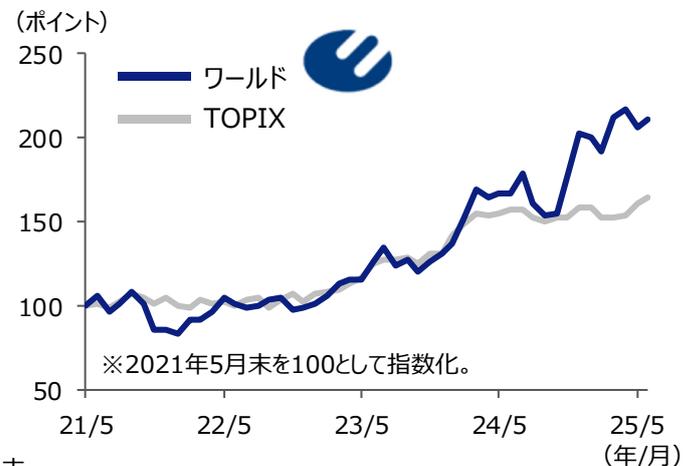
（12か月換算の参考値、2022年3月期～2025年2月期*）



* 2023年3月期までは3月期決算、2024年2月期より決算期が変更となっている。ただし、グラフ中では、2024年2月期は「2024年3月期」として、2024年3月の実績値を追加した12か月の数値を掲載。

ワールドの株価とTOPIXの推移

（2021年5月末*～2025年6月末、配当込み、月次）



※2021年5月末を100として指数化。

着目する変化：事業ポートフォリオの見直し

- 近年、業績の変動が大きいブランド事業への集中を是正し、事業ポートフォリオの見直しを図っています。
 - プラットフォーム事業は、商品の設計や製造、店舗開発の受託など、同社の長年のノウハウを他社に提供するという斬新なビジネスになっています。
 - 加えて、企業の再生支援にも取り組んでいます。カジュアル衣料で知られるライトオンに対して、TOB（株式公開買付け）を実施し、親会社として事業再生を目指しています。
 - デジタル事業では、自社ブランドのEC（電子商取引）モール運営に加え、他社のECショップの構築・運営等も手掛けています。

当ファンドの投資行動および足元の見方

- 当ファンドでは2021年5月以降同社株を保有しています。
- 事業の見直しによって業績が安定することで、資本コストが低下し、同社の株価のバリュエーションが切り上がることが期待されます。実際、収益構造の変化を受け、ワールドは安定的なキャッシュフローを得られるようになってきており、競合他社と比べて業績面の優位性が高まったとみています。

* 当ファンドにおけるワールドの直近の継続保有期間における組入開始月の月末。

（出所）ワールドホームページ、Bloombergのデータを基に委託会社作成、銘柄のロゴはClearbit社

※ 上記は当ファンドの運用の特徴をご理解いただくために、組入銘柄にかかるファンドマネージャーの視点を例示するものであり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また、個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※ 上記は過去の実績、当資料作成時点の見直しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果や市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。見直しおよび運用方針は今後、予告なく変更することがあります。

“アクティブ運用”ならでの視点（2）

知っているようで知らない！？ ～「エスビー食品」の今とこれからへの期待～

日本食は海外でも人気！？海外事業の拡大に着目

「エスビー食品」のご紹介

- 1923年に日本で初めて国産のカレー粉の製造に成功し、創業した企業です。
- 現在は、スパイスやハーブなどを軸に事業を展開しています。国内でも、家庭用スパイス市場は成長を続けており、同社はその恩恵を受けています。



※画像はイメージです。

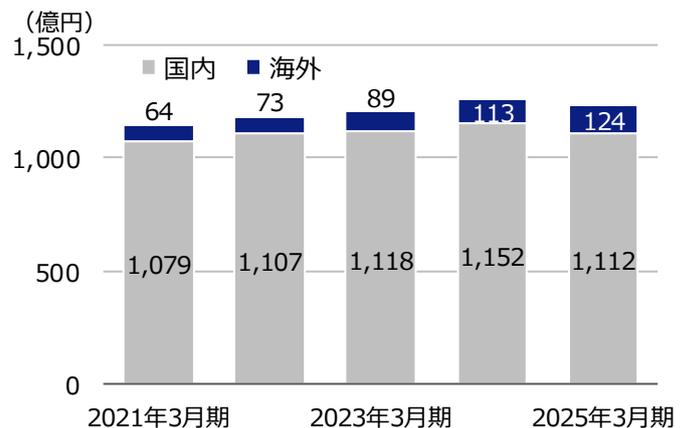
着目する変化：海外事業の拡大

- 2023年に策定された中期経営計画で、「20年後に海外売上高比率を40%超に引き上げる」という目標が掲げられました。
- 2021年3月期には売上高に占める海外売上高の割合はわずか5.6%でしたが、足元2025年3月期は10.0%と年々高まりつつあります。
 - 海外事業の拡大の理由の一つとして、日本食が海外でも広く浸透してきたことが挙げられます。同社の主力商品である「ゴールデンカレー」は、米国の小売大手ウォルマートでも販売されています。
 - 海外での売上を高める施策として、エスビー食品では各国の法規制に準じた輸出専用製品の開発・販売を強化しています。

当ファンドの投資行動および足元の見方

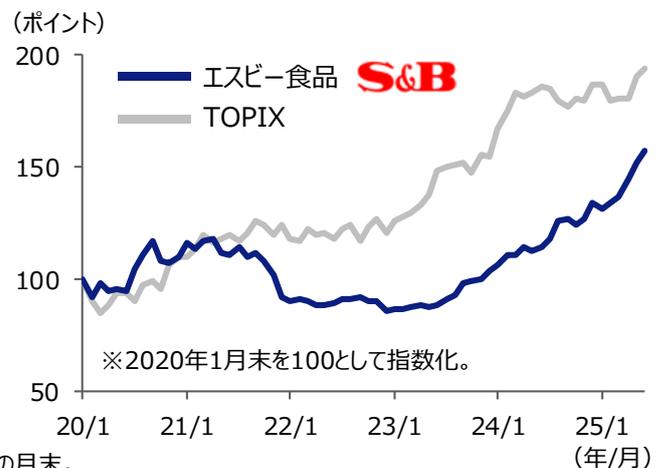
- 当ファンドでは2020年1月以降同社株を保有しています。
- エスビー食品は、海外事業の拡大によって、今後“稼ぐ力”の高まりが期待される組入銘柄の一つです。
- また、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けての動きもみられます。足元では、株式分割を実施し株式の流動性が高まったことに加え、連結配当性向の目標を30%に置くなど、積極的な取組みが行われています。

エスビー食品 地域別売上高の推移 (2021年3月期～2025年3月期)



エスビー食品の株価とTOPIXの推移

(2020年1月末*～2025年6月末、配当込み、月次)



* 当ファンドにおけるエスビー食品の直近の継続保有期間における組入開始月の月末。

(出所) エスビー食品ホームページ、Bloombergのデータを基に委託会社作成、銘柄のロゴはClearbit社

※ 上記は当ファンドの運用の特徴をご理解いただくために、組入銘柄にかかるファンドマネージャーの視点を例示するものであり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また、個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※ 上記は過去の実績、当資料作成時点の見通しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果や市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しおよび運用方針は今後、予告なく変更することがあります。

“アクティブ運用”ならでの視点（3）

知っているようで知らない！？ ～「長谷工コーポレーション」の今とこれからへの期待～

強みであるマンション事業に特化！ 継続的な収益獲得に向けた取組みに着目

住

「長谷工コーポレーション」のご紹介

- 長谷工コーポレーション（以下、「長谷工」）は、マンション事業に特化しており、特徴的なテレビCMでも広く知られています。
- 同社はバブル崩壊後に業績悪化に見舞われました。1999年には金融支援を受けることになり、当時は存続が危ぶまれましたが、リストラなどを経て“筋肉質”の財務体質に生まれ変わりました。



※画像はイメージです。

着目する変化：事業ポートフォリオの見直し

- 一般的にマンション事業は景気動向によって大きく業績が変動するため、株価のバリュエーションが低位になる傾向があります。長谷工は、継続的な収益獲得のため、さまざまな取組みを実施しています。
 - 同社は、コロナ禍以降ニーズが高まっている郊外のマンションで高いシェアを有しており、継続的な収益の獲得につながると考えています。
 - また、今後国内ではインフラ集約が進み、地方都市では利便性の高い中心部に立つ高層マンションへの引合いが強くなるとみられていることから、同社も高層マンションへ注力しています。
 - 加えて、さらなる収益の柱とすべく管理運営事業の強化にも取り組み始めています。

当ファンドの投資行動および足元の見方

- 当ファンドでは2020年3月以降同社株を保有しています。
- 同社の強みであるマンション事業に特化しつつ、さまざまな取組みを通じて継続的な収益の獲得を目指すことで、“稼ぐ力”は今後も高まるとみられます。
- キャッシュフローの活用として、持続的な成長への成長戦略投資に加えて、自社株買いを実施するなど株主還元に向けた意識の高まりもみられています。

* 当ファンドにおける長谷工の直近の継続保有期間における組入開始月の月末。

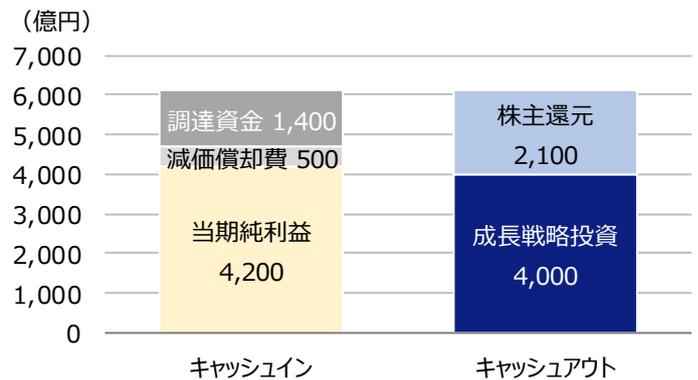
（出所）長谷工ホームページ、Bloombergのデータを基に委託会社作成、銘柄のロゴはClearbit社

※ 上記は当ファンドの運用の特徴をご理解いただくために、組入銘柄にかかるファンドマネージャーの視点を例示するものであり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。

※ 上記は過去の実績、当資料作成時点の見通しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果や市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しおよび運用方針は今後、予告なく変更することがあります。

長谷工 キャッシュアロケーションの中期の見通し

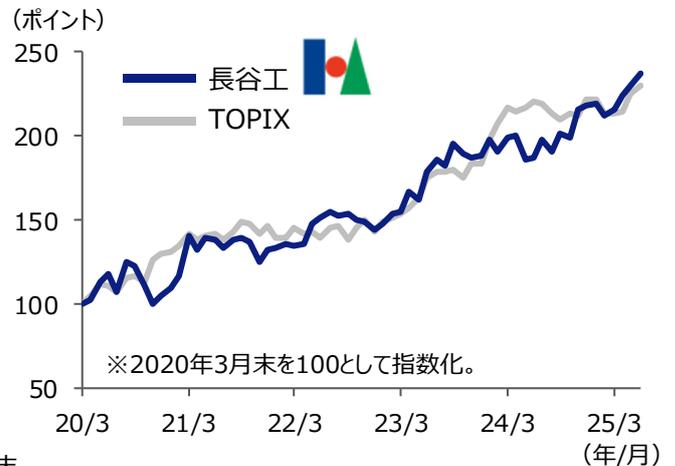
（2026年3月期～2031年3月期*）



* 出所：2025年2月13日発表「長谷工グループ中期経営計画」

長谷工の株価とTOPIXの推移

（2020年3月末*～2025年6月末、配当込み、月次）



※2020年3月末を100として指数化。

ファンドマネージャーからのメッセージ

- バリューストック投資では、業績の落ち込みなどを受けて株価が割安な水準にある時こそ、投資の好機となります。
- 具体的には、対象企業の調査・分析を行い、「この企業の業績は落ち込んだままなのか？」「それとも、今後拡大に向かう過程にあるのか？」等を慎重に検討し、業績の回復・成長が高い確度で期待されると判断すれば、ポートフォリオへ組み入れます。
- 黒潮ではこのような企業の変化に着目し、企業の“稼ぐ力”に比べて株価が割安と考えられる銘柄を見極めて、パフォーマンスの向上に努めてまいります。



当ファンドの主運用担当者
部奈 和洋（べな かずひろ）

組入上位10銘柄 (2025年6月30日現在)

(組入銘柄数：104)

順位	銘柄	業種	組入比率 (%)	実績PBR (倍)	予想ROE (%)	時価総額 (兆円)	規模
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	5.9	1.1	9.9	23.9	大型
2	ソニーグループ	電気機器	3.8	2.7	12.8	22.9	大型
3	豊田自動織機	輸送用機器	3.4	1.0	5.3	5.3	中型
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	3.3	1.3	3.4	15.5	大型
5	日本電気	電気機器	3.2	2.9	11.2	5.8	大型
6	トヨタ自動車	輸送用機器	3.0	0.9	9.3	39.4	大型
7	T D K	電気機器	2.3	1.8	9.7	3.3	大型
8	日本電信電話	情報・通信業	2.1	1.2	10.9	13.9	大型
9	住友電気工業	非鉄金属	1.9	1.1	8.3	2.5	大型
10	東京建物	不動産業	1.8	1.0	10.5	0.5	中型
(ご参考)							
	日本株式	-	-	1.4	8.9	540.2	-

(注1) 業種は東証33業種による分類。

(注2) 組入比率は、当ファンドの純資産総額を100%として計算。

(注3) 各銘柄の予想ROEは実績PBR÷2025年度のBloombergの予想PER（株価収益率、2025年6月末時点）で算出。

(注4) 日本株式はTOPIX、時価総額は指数時価総額。

(注5) 規模のうち、大型はTOPIX100、中型はTOPIX Mid400、小型はTOPIX Smallの構成銘柄。

(出所) Bloomberg、NPMのデータを基に委託会社作成

※上記は過去の実績および将来の予想、当資料作成時点の見直しおよび運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果や市場環境の変動等を示唆あるいは保証するものではありません。見直しおよび運用方針は今後、予告なく変更することがあります。

黒潮の最近の受賞履歴



R&I ファンド大賞 2025

<投資信託20年/国内株式バリュー部門> 優秀ファンド賞

「R & I ファンド大賞2025」について

「投資信託20年部門」は過去20年間を選考期間としている。選考対象は国内籍の公募追加型株式投信。シャープレシオによるランキングに基づき、最大ドローダウン、残高の規模等を考慮して表彰ファンドを選出する。表彰総数は国内公募追加型株式投信全体の3%弱と厳選して選定。評価基準日は2025年3月末。

「R & I ファンド大賞」は、R & I が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報（ただし、その正確性及び完全性につきR & I が保証するものではありません）の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務（信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR & I に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。

ファンドの特色

- 日本バリュー株マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式に投資を行うことにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。
 - わが国の株式の中から、各種投資指標により割安と判断される銘柄を重視し、中長期的な観点から個別企業のファンダメンタルズ分析により、投資銘柄を選定します。
 - マクロ経済動向および産業動向等の分析により、業種・規模別配分等を行います。

- TOPIX（東証株価指数、配当込み）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。

TOPIX（東証株価指数）とは

日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有する株価指数です。

日本の株式市場を投資対象とする金融商品の運用目標や評価の基準（ベンチマーク）として広く利用されています。

- 毎年7月8日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に、分配を行います。
 - 委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向、残存期間等によっては、または、やむを得ない事情が発生した場合は上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

投資リスク

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
 - 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
 - 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 当ファンドは、TOPIX（東証株価指数、配当込み）をベンチマークとします。当ファンドの投資成果は、ベンチマークを上回る場合がある一方で下回る場合もあります。したがって、当ファンドはベンチマークに対して一定の成果をあげることを保証するものではありません。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（1999年7月30日設定）

決算日

毎年7月8日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30% (税抜き3.00%) を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.672% (税抜き1.52%)の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただけます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号	○		○	○		
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		
株式会社S B I証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
岡三にいがた証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第169号	○					※1
静銀ティーム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第10号	○					
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○		
立花証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第110号	○			○		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○		
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第24号	○	○				
南都まほろば証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第25号	○					
日産証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第131号	○	○		○		
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第21号	○		○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○		
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	○		○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
リテラ・クリア証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第199号	○					
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○					※2
株式会社S B I新生銀行（S B I証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※3 ※4
株式会社S B I新生銀行（マネックス証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※3 ※2
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第7号	○			○		
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第8号	○					
株式会社三十三銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第16号	○					
株式会社東和銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第60号	○					
株式会社南都銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第15号	○					
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第6号	○			○		
株式会社八十二銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第49号	○			○		※5
株式会社東日本銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第52号	○					※1
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○			○		
株式会社三井住友銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号	○	○		○		
株式会社みなと銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第22号	○			○		
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第33号	○		○	○		

備考欄について

※1：新規の募集はお取り扱いしておりません。※2：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社※3：ネット専用※4：委託金融商品取引業者 株式会社S B I証券※5：委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）に帰属します。JPXは、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXにかかる標章または商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。また、JPXは当ファンドの取引および運用成果等に関して一切責任を負いません。

重要な注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡する最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。
- 当資料に評価機関等の評価が掲載されている場合、当該評価は過去一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

作成基準日：2025年6月30日